

特集

3年ぶりの開催、

かわるもの、

かわらないもの



私たちのまちに、
お祭りが帰ってきた

「今年はお祭り開催するみたいね」、
「久しぶりに開催するみたいだし行
ってみるか」。

久しぶりに行われる祭りへの期待
感とともに、そんな言葉が聞こえて
いました。

今年、3年ぶりに「本庄まつり」、
「こだま秋まつり」が開催されまし
た。

11月の祭りに向け開催されたお
囃子はやしの練習会には、空白の期間を埋
めるように、互いに切磋琢磨せつさくたくましなが
らお囃子や太鼓の練習に打ち込む子
どもたちと、手探りながらも元の祭
りの形へ戻していこうとする大人た
ちの姿がありました。

新型コロナウイルスの爆発的なま
ん延により、中止を余儀なくされた
あの時からはや3年、コロナ禍はお
囃子や太鼓など伝統技能の継承にと
のような影響を与えたのか。そして、
「まつり」とは私たちにとってどの
ような存在だったのか。

地元の方々のその姿は、私たちに
問いかけているようでした。

今回の特集では、3年ぶりに開催
された祭りに関わった方々の「思い」
にスポットライトを当て、なぜ祭り
や伝統文化が地域になくてはならな
いものなのかを考えます。

360° 動画で当日の祭り
の様子を見てみよう！



こだま秋まつり



本庄まつり